

公益財団法人日本宇宙少年団 令和7年度 事業計画書

はじめに

2025年は、日本の宇宙ベンチャー企業が月を目指す活動が本格化し、その成功を待ち望む時が近づいています。H2A ロケットの最後の50号機の打ち上げや、H3ロケットの打ち上げ、3人目となる大西卓哉宇宙飛行士のISS 船長就任、そして諏訪理宇宙飛行士のYAC 大使就任など、数々の注目すべきトピックが展開されます。これらの出来事は、多くの子どもたちの好奇心を刺激し、宇宙への憧れや夢を広げる大きな契機となることが期待されます。

本事業では、これらの宇宙関連のトピックをテーマに、各事業のプログラムを考案し、次世代の宇宙開発に向けた人材育成や普及活動を推進します。

公益財団法人日本宇宙少年団の活動は、全国の分団指導者や分団の英知と善意をもってその活動がなされていること、その活動を賛助及びご寄附下さる関係各位のご理解とご支援により財団運営が遂行できましたことについて、心より感謝を申し上げます。

上記を踏まえ、以下に令和7年度の各事業における具体的な取り組みを記載します。

I. 人材育成事業 (公1)

未来を担う青少年に、宇宙及び科学をテーマとした体験・体感型学習を通して興味や関心を喚起させ、青少年の宇宙への夢を育む人材育成を目的に、以下の事業を行います。

1. スペースキャンプ事業
2. 情報発信事業
3. webによる普及啓発事業
4. 40周年記念事業 (特定費用準備資金)
5. その他事業

1. スペースキャンプ事業

(1) 種子島スペースキャンプ

ロケット打上げ射場のある種子島を中心に、「宇宙・自然・交流」をテーマとした体験学習を行います。

種子島では、JAXA増田宇宙通信所や種子島宇宙センターの見学、専門家による講義やシミュレーションを使った水ロケット工作と打上げプログラムを行います。

全国から集う異年齢の小中学生を対象に、子ども達に「本物」に触れ学ぶ喜びを分かち合い、興味・感動を引き出す機会を提供します。

時期：春休み (3泊4日)

場所：鹿児島県・種子島

対象：小学4年生～中学生の団員及び一般

(2) 筑波スペースキャンプ

筑波宇宙センターの見学やロケットや衛星、有人宇宙活動についての理解を深める体験プログラムを実施します。

さらに、異年齢のグループ活動ではコミュニケーション力を養い、宇宙飛行士の心身ともに鍛えることの大切さや宇宙開発の現場のチームワークの重要性について専門家から講義を行います。

時期：夏休み（3泊4日）

場所：JAXA筑波宇宙センター

対象：小学4年生～中学生の団員及び一般

2. 情報発信事業

(1) 宇宙情報誌「宇宙のとびら」の発送

宇宙に関わる様々な分野や研究者の活動紹介、そして宇宙及び科学に関する最新のニュース、新しい科学の発見などを誌面で紹介し、子どもたちの宇宙及び科学に対する関心・好奇心を育むことを目的として宇宙情報誌「宇宙のとびら」の編集に協力します。

この「宇宙のとびら」はJAXA宇宙教育センター（発行）及び公益財団法人日本宇宙少年団（編集協力・団員配布）の連携により、年4回（6月、9月、12月、3月）発行し、団員や賛助企業等への発送をはじめ、分団活動や財団事業で配布し広報活動等に役立っています。

(2) YAC通信の発行

これから予定するイベントの告知や終了したイベントの報告、分団での活動紹介等の情報をまとめた「YAC通信」を年4回（6月、9月、12月、3月）発行し、「宇宙のとびら」と一緒に団員へ発送します。

(3) 付録教材の発送

子ども達の宇宙への興味・関心を高める簡易教材を開発し、外部助成金等を活用して製作します。視覚的に魅力的で、楽しみながら学べる内容を提供し、家庭や分団で活用できる教材を目指します。

(4) 団員への送付物

入団に際し、団員特典として、新規団員は団員証、バッジ、パスポート、冊子、YAC通信、付録教材等を送付します。継続団員は団員証、パスポート、冊子、YAC通信、付録教材等を制作・送付します。

(5) 団員管理システムの維持管理

財団独自に構築している団員管理システムにより、分団活動及び団員一人一人の個人情報の適切な管理に努めます。

また、ホームページのリニューアルを図り、分団活動等ページを見やすくしましたので、分団活動情報の速やかな掲載を促し、常に新しい情報発信ができるよう分団とも連携して

いきます。

3. Webによる普及啓発活動

(1) 分団等連携団体との協力推進

①分団等との連携協力

宇宙及び科学技術を共通の題材とした子ども達の人材育成には全国の分団との連携協力が不可欠です。そのため、分団等連携団体との連携を図るため、活動委員会が中心となり、全国の宇宙少年団分団との協力推進を行うとともに、体系的な指導方法や共通した育成方法を毎年分団長が集う「分団長会議」の場で実践例を紹介し、意見交換及び交流等を行います。

なお、分団長会議の場において、活動委員会が提案する共通プログラムをウェブ上で開催し、各分団長の参加を促進します。令和7年度は、11月22日（土）および23日（日）の2日間、東京都内で開催予定とし、オンライン参加も可能とすることで、できるだけ多くの分団長の参加を促す計画です。

②活動委員会

分団等連携団体との協力の促進を図るために、活動委員会として、以下の取組みを継続し実施します。

- ・第14回衛星データ利用コンテスト
- ・だいち2号に写ろう！
- ・分団長会議の開催
- ・宇宙教育指導者セミナーの開催
- ・YAC分団の活動実態調査
- ・新たな挑戦地球型惑星を目指して
- ・YACかわら版
- ・宇宙教育誌の発行

③宇宙教育指導者セミナーの開催

社会教育団体活動の指導者育成を目的とするセミナー（高校生を除く18才以上を対象）を、JAXA宇宙教育センターと（公財）日本宇宙少年団が主催となり、全国の開催地域と連携協力しながら、現地対面受講とオンライン受講を合わせたハイブリッド方式で年10回実施します。

(2) 活動マニュアル等のweb公開

YAC指導員のみならず広く一般に、活動教材集や宇宙教育誌をwebで公開し、活動の素材提供、宇宙時代の教育について考える場、宇宙と教育についての考察の場、宇宙教育の実践研究報告の場を提供します。

(3) webを通じたイベントの取組み

財団主催及び共催で実施するコンテストや団員のみならず広く一般を対象とするイベントなどの参加募集や実施結果等を、webを通して公開し、子ども達の宇宙及び科学に関する普及啓発を行います。また、YouTube Liveなどのライブ配信機能を活用し、全国各地

の団員が宇宙について学び、質問ができる機会を提供します。

(4) 講師派遣等

①外部への講師派遣

広く一般を対象に、宇宙及び科学に関する知識の普及啓発や宇宙教育の推進を目的に、外部からの依頼により、リモートイベントや対面イベントに講師を派遣し、宇宙及び科学に関する知識の普及活動を行います。

②連携団体（分団）への講師派遣

日本宇宙少年団分団からの講演依頼に対し、宇宙及び科学をテーマに合わせ、当財団理事及び相談役を派遣します。

4. 40周年記念事業（特定費用準備資金）

40周年を迎えるまでに財団名称の変更をはじめ財団の課題等を把握し方向性を今年度も継続して検討します。

5. その他事業

Akama財団（アメリカ企業）「グローバルSTEM教育助成金プログラム」へ2年目の申請し採択を受けました。これにより、今年度申請内容に基づきプログラム開発の更新及び実施を行います。

プログラムタイトル：飛翔シミュレーションを用いた新しい形の水ロケット教育

II. 管理運営等

1. 評議員会

令和7年度 定時評議員会の開催（令和7年6月）

2. 理事会

決算理事会の開催（令和7年6月）

予算理事会の開催（令和8年3月）

3. 会員

活動委員会では、定期的に全国の分団活動状況調査や分団活動報告を確認し、全国の分団活動状況や活動計画を把握する手掛かりにしていきます。

日本宇宙少年団活動も35年以上が経ち、多くの団員やリーダーが卒業しているため、元団員にもYACサポーターとなってもらえるよう、名称を「YACフェロー」という肩書を付与することにしました。

今年度も団員の保護者や一般にも宇宙や科学技術に興味を持つ方も多くおり、多様な団員の有り方、つながり方を検討していき、新しい団員の獲得に繋げていきます。

4. 事務局体制

事務局は、昨年度に続き、事務局長と旅行業務取扱責任者を併任する常勤1名と事務局員常勤2名、非常勤1名の計4名体制で事業の運営及び管理業務に当たります。また、スペースキャンブ事業や助成を受けた活動の実施には支援要員を増やすことや、講師派遣等には当財団役員が講師となり、専門性を活かして積極的に関わります。

以上